

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 12 日現在

機関番号：33919

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2013

課題番号：25580069

研究課題名(和文)ヘミングウェイ博物館蔵書における自筆書き込み調査とそのデジタル・データベース化

研究課題名(英文)The Hemingway DAT(Digitization of Annotated Texts) project in Finca Vigia, Cuba

研究代表者

柳沢 秀郎 (Yanagisawa, Hideo)

名城大学・大学教育開発センター・嘱託講師

研究者番号：40647989

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円、(間接経費) 750,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、キューバのヘミングウェイ博物館所蔵の9,000冊の蔵書の中に存在する「書き込み」資料を老朽化による散逸から守るべく、デジタル化する試みである。その際、「デジタル化専用機器」の設計製作、デジタル化機器のキューバ持ち込みに必要な手続き、撮影、デジタル化の研究予行練習、デジタル化の実施、PDF化編集作業を実施した。その成果として、2000アイテムに及ぶ「書き込み」資料の25%のデジタル化を達成した。

今後はすべての「書き込み」資料をデジタル化し、アーカイブを構築した上で、世界中の研究家が自由に閲覧できるように整備する予定。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this project is to conserve the handwritten annotations in more than 9000 items of paper material, such as books, brochures and maps, stored in the Hemingway Museum in Cuba. This is being done by a process of digitization. To achieve this, the author (1) designed and constructed a digitizing machine; (2) guided the machine through the complicated bureaucratic channels to bring it in to Cuba legally; (3) developed the skills needed to use the machine efficiently; (4) began to digitize the handwritten annotations in Cuba; and (5) put the data into a PDF file and edited it. At present, 25% of the total number have been digitized (over 2000 items). From here onwards, it is expected that the digitization of the remaining items will be completed, and an archive will be created for all researchers around the world to access.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学

キーワード：アメリカ文学 ヘミングウェイ text annotation 蔵書研究 デジタル化 キューバ

## 1. 研究開始当初の背景

申請者がキューバのヘミングウェイ博物館の全蔵書の「書き込み」調査とその「書き込み」個所のデジタル・データベース化を本研究の骨子として立案するに至った背景は、(1)「書き込み」が存在する高い可能性、(2)蔵書の深刻な劣化、(3)本研究に対するヘミングウェイ博物館からの正式な許可と協力の確約が得られた、の3点である。以下この3点について具体的に説明する。

(1) 戦後の日本において『老人と海』が文部省特選映画に選定され、その後、国語の教科書に採用されるなど、ヘミングウェイは教育史的にも日本との関係が深い作家である。2007年6月、申請者は蔵書の「書き込み」調査をヘミングウェイ博物館に依頼し、予め打診しておいた日本やアジアに関する約150冊の蔵書について実際に「書き込み」調査を行った。その結果、明らかにヘミングウェイの筆跡と一致する未発見の「書き込み」を計23個所確認し、さらにその撮影を実施した(この成果の一端は2008年の日本英文学会全国大会で公表している)。このことは、9000冊近い残りの蔵書のなかにも、同様の「書き込み」が存在する高い可能性を示唆するものである。

(2) しかしながらこのときの調査を通じて、この貴重な資料が果たして今後も維持されるだろうかという危惧も同時に感じられた。なぜなら、閲覧した書籍の多くに乾燥による深刻な劣化が散見されたからである。所蔵絵画などの修繕は現在アメリカのノース・イースト文書保護センターの文書保護研究所所長ウォルター・ニューマンを中心に進められているが、資金的に蔵書のデジタル化にまで至っていない現状であることを、申請者が2011年に訪玖した際、ニューマン自身に確認している。したがって、蔵書内に潜在するヘミングウェイ直筆の「書き込み」という第一次資料が、蔵書の劣化とともに消失してしまう可能性が

大いに危惧されるのである。

(3) そうした理由から申請者は兼ねてより、全蔵書の「書き込み」調査とそのデジタル・データベース化について、その許可および研究活動への協力を要請していた。そして、2012年10月2日、ヘミングウェイ博物館館長 Ada Rosaより研究活動への同意と協力を承諾いただき、この度の科学研究費に申請するに至った。

## 2. 研究の目的

本研究の全体構想は、キューバのヘミングウェイ博物館(旧アーネスト・ヘミングウェイ邸)に所蔵されている約9000冊の蔵書に対する①ヘミングウェイ自筆の書き込み(text annotation, 以下「書き込み」)の調査、②「書き込み」個所のデジタル化、③②によって得られた情報のデータベースを構築することによって、これまで未確認かつ未公開の「書き込み」を新たに発見するとともに、蔵書の急激な劣化に伴い、ヘミングウェイ研究における第一次資料でありながら、その消失が危ぶまれる「書き込み」資料の恒久的な保存および閲覧環境の整備に貢献することである。本研究はその第一段階であり、「書き込み」個所の特定とその暫定的保護とを目的とする。

## 3. 研究の方法

### (1) 実施手順

作業場の確保と博物館との協力体制

(写真はすべて本人了承の上掲載)

博物館作成の「書き込みリスト」の使用が許されたため、このリストに沿ってデジタル化作業を行うことができた。

アイテムを確認する作業テーブルはキッチンに常設されている既存の設置テーブルを使用した。電源は室内電源ソケット(110V)が稼働しているため、そこから確保した(ソケットの形状が異なるのでアダプター海外用エクステンションを使用)。また、博物館側の協力体制として、博物館専属コンサバターのネ

ストル氏(Fig.2 中央)を中心に、IT 専門のチェイラ職員とハウヘイ職員(Fig.1 中央と右)、およびイアルベルト司書(Fig.2 左から二番目)などがこのプロジェクトに参加協力している。なお、この博物館側の協力体制が本研究の遂行まで継続されることは博物館館長 Ada Rosa(Fig.2 左端)および、キューバ文化庁長官 Gladys によって約束されている。



Fig. 1



Fig. 2

## (2) 実施手順

①イアルベルト司書が「書き込みリスト」に従って、該当箇所よりアイテムを作業場に搬入。

②チェイラ職員とハウヘイ職員が同じリストを参照しながら、ラベリングバー (Fig.3: 申請者考案) にリストで使用されている「ID 番号」と「ページ番号」とをラベリングし、



「書き込み」資

Fig. 3

料とともに申請者に手渡す。

③デジタルカメラとスキャナーをパソコンで制御した「デジタル化専用機器 (Fig.4: 申請

者設計)」を用いた。アイテムの状態や色調を考慮の上、カメラかスキャナーを使うか適宜判断し (黒色や濃い茶色いブック・ジャケットやカバーなどの撮影はスキャナーには適さない)、



各アイテムにつき

Fig. 4

(i) タイトルページ、(ii) 出版データページ、(iii) 「書き込み」ページの順序で撮影。

④画像はその場で確認。不備があれば再度撮影。

⑤撮影終了後、上記(i) (ii) (iii)を統合したPDF ファイル (ファイル名はID 番号) をアイテムごとに作成。

⑥作成したPDF ファイルの個数およびそのファイル番号がリスト上の作業記録と合致しているか確認し、不備があれば再度撮影した。

4. 研究成果 下図(Fig.5)はキューバのヘミングウェイ博物館の見取り図である。申請者は博物館奥に作業スペースを与えられていた。各番号は博物館が定めている整理番号であり、蔵書や出版物がおさめられているのは、①②④⑤⑥⑦⑧⑩である。2013年8月の作業で、このうち①②④の部屋所蔵の「書き込み」資料がデジタル化を済ませた。結果、2000アイテムに及ぶ「書き込み」資料のうち、455アイテム (撮影画像総数2602枚) にデジタル化を試み、全体の25%のデジタル化を達成した。

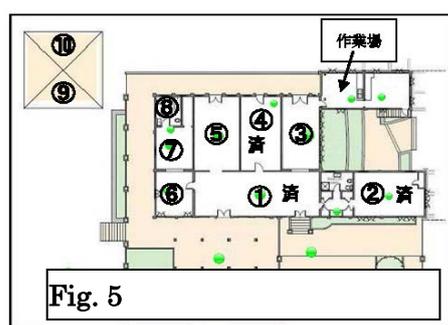


Fig. 5

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計 1 件)

①

発表者名: 柳沢秀郎

発表標題: 「長髪の日本人画家たち—『エデンの園』オリジナル原稿に見る性倒錯の異人種コラージュ」

学会名: 日本ヘミングウェイ協会 第24回全国大会

発表年月日: 2013年12月21日

発表場所: 東京ユビキタス ANVAS

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

柳沢 秀郎 (YANAGISAWA, Hideo)

名城大学・大学教育開発センター・嘱託講師

研究者番号: 40647989

### (2) 研究協力者

ネストル (Néstor Álvarez Gárciga)

ヘミングウェイ博物館・コンサバター

イダルベルト (Idalberto Batista Bles)

ヘミングウェイ博物館・司書

チェイラ (Sheila Álvarez Gárciga)

ヘミングウェイ博物館・職員

ケニア (Kenia Máscaró Cantero)

ヘミングウェイ博物館・学芸員

イザベル (Isbel Ferreiro Garit)

ヘミングウェイ博物館・学芸員